

【資料1】各園の今年度目標・特色等（まとめ）

今年度、園として頑張りたいところ、園で目指す特色等

1. 西脇こども園

- 全職員の意識の統一。
- 保育や行事の振り返り、情報共有を密にしたい。

【園長から】

S40年～旧園舎の時代に一人担任で保育してきたが、一人の保育者の見方で子を決めてしまわずいろいろな可能性を見出してほしいという願いから、保育室の壁をなくし複数担任制を取り入れた。しかし、そこでは保育者間の人間関係や連携の難しさがあり、今現在、壁はないが一人担任制に戻している。時代の大きな流れや保育の流れが移っている中、今は、保育環境についていろいろと試行錯誤し、現状に応じて考えていきたい。

《担任の目標（任意）》

- ・担任全員で保育の話（悩み、相談）をする時間作り。
- ・主体的に活動できる保育、子ども主体の保育、主体的に過ごせるための支援。（3名）
- ・子どもたちをよく観察し何に興味をもっているのかを知り、遊びの環境を整え、発展。
- ・他の先生が悩んでいることに寄り添いたい。（主幹教諭）

2. 比延こども園

- (1)地域と連携した様々な体験活動を今年度も進めていきたい。
- (2)年齢に応じて、自分の思いを伝え聞き合う、話し合い活動の基本となる力を付けていきたい

【園長から】

この視察訪問は、準備するものもあって大変な部分もあるが、やはり保育者にとって保育を見直し、向上できるよい機会となっている。

- (1) 地域性のよさを生かした保育を、コロナ禍ではあるが、計画実施。じゃがいも掘り…幼児は畑で実際に収穫、0～2歳児は、園のタライで疑似体験し、食への興味を育む。タマキニメさんと連携したコットンの種植え・収穫・端切れの提供等を造形活動へ生かす。
- (2) 園長も教師時代『自分の思いを伝える』『相手のことを聞く』ことを大切にし、児童にかかわっていた。園児たちを見ていると、3～5歳児と成長するにつれ、少しずつ話し合い活動が育まれ、意識できていると感じる。園小接続にもつなげていきたい。

※その他 リズム体操について

園児の身体の動き・体幹やバランスを育てるためにほぼ毎日実施。7/1の参観日で発表、教師が作成したリズム体操の動きのイラストを配布。

《担任の目標（任意）》

- ・子どもの発達に合わせた遊びや活動内容。 ・一人ひとりの声に耳を傾けて、思いを大切にする。
- ・子どもの気持ちを受け止め、否定の言葉を減らす。
- ・子どもたちのやってみようという気持ちやこれなんだろう？を追求する力を養えるようにする。
- ・先生の良さ、得意なところを引き出し、先生自身が楽しんで保育ができるようにしたい。意見の言いやすい、話しやすい職場づくり。（主幹教諭）

3. どれみこども園

いろんなことを体験できる集団生活を通して、5つの保育目標に向かって、子どもたちがこども園で色々なことを学び、自分で考え、友だちとの関わりの中で、生き生きと活動できるような楽しい環境づくりを考えた保育を心がけています。

【園長から】

去年は公開保育があり、職員一丸となって、保育に対して一生懸命に取り組んだ1年だった。この学びを継続していきたい。また、一昨年12月に園長に就任したが、本園では色々な習い事をしている。これまでのやり方がすべて悪いとは思っていないが、見直しを図りたいと思っている。これまでのような子に教えるだけではなく、子が自分で気づく、意欲や主体性を大切にできるような土台作りを目指したい。

職員研修では、保育環境を写真で取り合って職員で共通理解を図るとともに、昨年度に続き中重直俊准教授（千里金蘭大学）に保育内容やドキュメンテーションについて助言いただく。

《担任の目標（任意）》

- ・それぞれが個々のペースで成長する中で、好きなことを見つけて遊べるように環境を整える。
- ・個々の成長に合ったかかわり。 ・広い心をもって、落ちついて子どもとかかわる。
- ・様々な場面で振り返りをしっかり行う。 ・子どもの自主性を育む活動をたくさん取り入れたい。

4. 日野こども園

○こども園として、再スタートしてから、子どもにとってよりよい環境作りを大切にしている。子どもへの問いかけ、言葉かけ等の人的環境、保育室の環境構成など物的環境を整え、保護者への情報発信にも力を入れている。

○今年度は、「見守る」をテーマにして、子どもの姿から、今、何が必要なのかを保育者自身がとらえる力をつけていきたい。

【園長から】

平成29年度のこども園化から、6年。子どもの自立に向けて必要なことは、『意欲と達成感』だと考える。それを育むために、園では『保育環境の工夫』『あたたかな言葉かけ』を大事にしている。特に、本園ではここ数年、支援児を前向きに受入れている。職員も園児も支援児を受け入れることで、多くの気づきと学びが生まれると考えている。

今年度は、『見守る』をテーマに子の活動にある思いをくみ取る、言動の裏に何があるのかを考え、援助していきたい。

《担任の目標（任意）》

- ・歌の時間、絵本などみんなで座って過ごせる時間（短くていい）を習慣づける。
- ・子どもの興味や関心があるもので遊びを提案できるように知識を広げたい。
- ・体を動かす遊びや、簡単なルールのある遊びを取り入れる。
- ・子どもの発達段階や興味を理解し、遊び込んだりできる活動を展開。
- ・年齢ごとのカリキュラムを話し合い、時期や取組を明確化、共通認識していきたい。（主幹教諭）

5. かすがこども園

○今年度「身体を使ったあそび」をとおして園内研修を行い、子どもののびのびとした成長を目指す。

○支援の必要とする子どもたちにかかわることで、保育の質の向上を目指す。

【園長から】

本園では、ドキュメンテーションを積極的に取り組んでいる。コロナ禍もあり保護者との連携を図るよいツールとなっている。今年度、玄関に全学年のドキュメンテーションを張り出し、園の保育を知る機会とするとともに（理解を図る）、学年限定で SNS にもアップしている。

園内研修では、今年度保育者 3～4 人の小集団グループで保育参観、その後 30 分～1 時間のワークを行い意見交換・協議を行っている。

《担任の目標（任意）》

- ・子どもたちが安心して過ごせる環境、子どもの興味や関心に合わせた活動。
- ・子ども一人一人の発達段階をよく把握し、子どもが興味をもち楽しめるような活動。
- ・ドキュメンテーションの充実。 ・子どもたちがより楽しく、遊びたくなるような保育環境。
- ・子どもの興味や経験を保育に取り入れ、子どもが主体となった保育。
- ・子どもたちに自己肯定感を育む。 ・優しい言葉遣いで、穏やかに子どもたちとかかわる。
- ・友だちとのつながりや広がりをもてる保育。 ・充実した遊びが展開できるような保育。
- ・一人一人の担任が「自己決定」と「意欲」をもって保育に取り組むことができるようサポートしたい。（副主幹教諭）

6. つまこども園

『明るい声が響き 笑顔あふれる楽しいこども園』を目指し、「たくましく心情豊かな子ども」の育成に向かって日々取り組んでいます。こうした子どもの育成には、何よりも保育教諭の子どもの育ちのよみとりと日々のかかわりの質が大切だと考えています。職員研修では、ドキュメンテーションを基に、子どもの育ちや保育者のかかわりについて話し合いをしています。また、日々の教育・保育の中での子どもの育ちをメモし、職員室に掲示することで、子どもを見る眼の成長を促すとともに、全職員で子どもたちの成長を支えていく雰囲気を作っていきたいと考えています。

【副園長から】

現在 112 名の園児を受け入れている。西小校区（津万地区）の子は、仲が良い・規律があり挨拶も気持ちがよい。園の課題として、保育者が 3 年続かない。新しい人材確保の難しさもある。職員のカウンセリング・グループディスカッションを 7 月から開始。

《担任の目標（任意）》

- ・手遊びやダンスが好きな子が多いのでいろいろな曲にふれられるようにしたい。
- ・子どもたちが安心して過ごせる保育。 ・笑いの絶えない楽しい日々を、子と過ごしたい。
- ・自己肯定感を高めるために、子どもを具体的に認める言葉掛けを増やす。
- ・職員が複数いるので、協力してクラス運営を行っていききたい。
- ・子どもたちからの意見やアイデアをたくさん取り入れて、活動や行事に取り組みたい。

7. 芳田こども園

こども園の教育・保育の充実のために

昨年度の取組とカリキュラム内容を参考に、ドキュメンテーションを重視した取組を進める。具体的な実践では、担任と副担任・補助者の共通理解や園児への関わり方等、課題も見られる。本年度はこの課題を解決する。

○園の行事や園児の状況についての共通理解を図るために

○保育内容の共通理解のために

(1) 職員会議の工夫

未満児担当職員会議と3・4・5歳担当職員会議を担任・副担任、保育補助等合同で実施

(2) 研修機会の工夫

発達年齢によるグループ別研修を全員で実施、副担任等のキャリアアップ研修会参加
配慮の必要な園児の園内ケース会議の実施

【園長から】

元年度から3年度、キャリアアップ幼児教育の公開保育に向けて勉強や助言をうけたことで、担任の力もついたが、副担任の保育者との対応の仕方や保育理解の差も見られるようになった。子の立場で考えると、担任も副担任も正規も非常勤も関係なく先生である。そこで、常勤的非常勤職員を正規職員にしていこうと考えている。(今年度1名)これまで、主担任が正規、副担任が非常勤だったが、徐々に、主担任も副担任も正規職員となり一緒に保育を進めていけるようにしたい。

配慮の必要な園児も増え、外国籍の子もいる。多様化に応じることのできるこども園にしたい。

《担任の目標（任意）》

- ・0、1歳児の発達にあった環境構成 ・年齢に応じた子どもへのかかわり、環境構成
- ・子どもの興味に合わせた環境構成と一人ひとりに応じた保育者のかかわり
- ・子どもの年齢にあわせた言葉かけ ・子どもが興味をもつ遊びの環境構成

8. 黒田庄こども園

○家庭・地域への情報発信を進める

- ・保育参加日の設定 ・ホームページ、よい子ネットでの情報発信
- ・学校、学年だよりの発行 ・町の広報紙への原稿掲載（園の活動紹介等）

○職員の研修機会を増やすと共に、情報を共有する

- ・本年度公開保育を中心とした学びの場 ・伝達・回覧等を活用した学びの共有化
- ・市内外の研修会への参加促進

【副園長から】

家庭・地域への情報発信としては、感染対策を行いつつ参観機会を増やせる工夫をしたい。実際に保護者に子どもの姿や学びを見てほしい。また、見える化を図るため、写真を多く取り入れたおたよりやHPの更新、地元紙くろっこ通信のコーナー等発信していく。また、時間の制約のある難しさもあるが、職員の研修の機会をもち、学びと情報の共有化を図りたい。

《担任の目標（任意）》

- ・子どもたちの発達や興味にあった保育を時期も考えながら、取り入れていきたい。
- ・保育の環境について学びたい。どのような環境にすると子どもたちが主体的に考え気付いて動くことができるのか、どのように子どもたちへ伝えていくといいのか学びたい。
- ・ドキュメンテーションを頑張りたい。
- ・ドキュメンテーションを継続し、それを保育や保護者支援に活用したい。

9. しばざくら幼稚園

本年度で閉園となります。担任をしている職員も西脇市幼稚園教諭として最後の年となりますが、肩に力を入れすぎずに、目の前の子ども達の健やかな成長の手助けとなるよう、いつも通り、頑張っていきたいと思っています。

子ども達がワクワク、幼稚園楽しいと思えるような保育内容を工夫しながら、子ども達のもつ力を信じ、発揮できる環境づくりを子どもと一緒に考えていきたいと思えます。

【園長から】

○教育目標 「地域に根差し心豊かでたくましい子どもの育成」

大きな目標は、幼稚園が8園共通の目標であったものと同じであるが、中学校区の共通目標である「地域に根差し」という言葉を加えた。

○めざす子ども像

『自ら考え選んで決定し行動できる子に』の『自ら』という部分を、特に意識している。これは、園児のみならず職員も共通の目標である。

○努力目標 「一人一人がきらきら輝く幼稚園」～異年齢交流を通して～

異年齢とは、3, 4, 5歳児の交流のみならず、すべての交流である。地域の人々や、中学校区の園小の交流も広い視野で取り組んでいきたい。

○研究主題 「学びの連続性を踏まえた保育のあり方について」

今年度より接続カリキュラム委員会が2年計画で始まった。本園でも教育課程を10の姿に置き換え、アプローチカリキュラムに取り掛かっている。

※今年度で閉園となる。「今までこんなこと(保育)を大事にしていた」が伝わるようにしたい。

《担任の目標（任意）》

- ・3歳児、はじめての集団生活なので、基礎基本を大切に、『見たり・ふれたりさわったり・やってみたり』子どもたちが意欲をもって、いろいろな体験ができるようにしたい。
- ・何でも挑戦、やってみようという気持ちを育てていきたい。一人ひとりの個性を大切に、個々によりそって保育を進めたい。
- ・一人一人に対する幼児理解を深めながら、それぞれに応じた保育を進めていきたい。